

Title	有末賢教授略歴・主要業績
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	2017
Jtitle	法學研究：法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.90, No.1 (2017. 1) ,p.455- 469
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	有末賢教授退職記念号
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-20170128-0455">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-20170128-0455</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 有末賢教授略歴

### 学歴

一九七二年三月 東京都立大泉高等学校卒業

一九七三年四月 慶應義塾大学法学部政治学科入学

一九七七年三月 同大学同学部卒業

同年四月 慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻修士課程入学

一九七九年三月 同大学院修士課程修了

同年四月 同大学院社会学研究科社会学専攻博士課程入学

一九八二年三月 同大学院博士課程単位取得満期退学

### 学士号・学位

法学士（慶應義塾大学） 一九七七年三月三十一日授与

法学修士（慶應義塾大学） 一九七九年三月三十一日授与 修士論文名…「批判的社会学序説」

博士（社会学）（慶應義塾大学） 二〇〇一年二月二七日授与 博士論文名…「生活史の社会学—その方法と課題—」

所属学会及び入会年月

関東社会学会

一九七七年六月入会（理事「通算四期」、会長・二〇〇九～二〇一一年）

日本社会学会

一九七七年一〇月入会（二〇〇三～〇六年…理事、二〇一三～一五年…理事、『社会学評論』編集委員長）

日本民族学会（現・日本文化人類学会）

一九七九年四月入会

地域社会学会

一九八一年五月入会（一九九一～九五五年、一九九八～〇二年、二〇〇四～〇六年、二〇一二～一四年…理事）

日本生活学会

一九八一年六月入会（一九八三～八五年…幹事、二〇〇〇～〇二年…理事、二〇〇三～〇七年『生活学論叢』編集委員長、二〇一四～一六年…理事）

日本都市社会学会

一九八二年四月入会（一九九三～九七年…編集委員会座長、一九九七～九九九年…理事、二〇〇三～〇五年…理事）

日本移民学会

一九九四年一月入会

日本都市学会

一九九九年七月入会

国際社会学会

一九八五年九月入会

日本オーラル・ヒストリー学会

二〇〇三年九月入会（理事・編集長・二〇一五～一七年度・会長）

三田社会学会

一九八五年入会（一九九四年～…幹事、二〇一五～二〇一七年度…会長）

職歴

一九八二年四月

慶應義塾大学法学部専任講師

(一九八五年四月

～八七年三月 英国エセックス大学社会学部訪問研究員福澤基金にて留学)

一九八八年四月 慶應義塾大学法学部助教

(一九九一年八月

～九二年七月 中国・北京日本学研究中心客員助教授国際交流基金にて出張)

一九九六年四月 慶應義塾大学法学部教授

(一九九八年三月 英国ケンブリッジ大学社会学部及びオーストラリア・メルボルン大学日本研究部訪問教授 慶應義塾

～九九年三月 大学派遣留学にて)

二〇一六年三月 慶應義塾大学(選択) 定年退職

四月 慶應義塾大学名誉教授

二〇一六年四月 亜細亜大学都市創造学部教授

### 非常勤講師他

一九八三年四月～八四年三月 立教大学社会学部講師 演習Ⅰ・Ⅱ

一九八七年一〇月～八八年九月 (株)東急総合研究所 第一期研究会講師

一九九〇年二月 お茶の水女子大学大学院(人文科学研究科修士課程) 講師 社会学特論Ⅱ 集中講義

一九九一年四月～七月 明治学院大学社会学部講師 社会調査論、演習Ⅰ・Ⅱ

一九九三年一月 神奈川県自治総合研究センター 社会学研修講座

一九九四年二月 神奈川県自治総合研究センター 社会学研修講座

一九九三年一月～二月 (株)東急総合研究所 第六期研究会講師

- 一九九三年四月～九六年三月 明治学院大学社会学部講師 都市社会学Ⅱ
- 一九九三年四月～九四年三月 専修大学文学部講師 社会学特殊Ⅱ
- 一九九三年八月～九四年三月 社会経済国民会議エネルギー問題特別委員会政策専門部会委員
- 一九九三年一〇月～九四年三月 小平市立仲町公民館市民講座講師
- 一九九三年一二月～九四年九月 (株)東急総合研究所 第七期研究会講師
- 一九九六年一二月～九八年三月 とちぎ総合研究所「新首都構想研究会」研究委員
- 一九九七年一月 小平市立中央公民館シルバー大学講師
- 一九九七年四月～九月 埼玉大学教育学部(家庭科教育学専攻)講師 生活文化論
- 一九九九年四月～二〇〇〇年九月 調布学園短期大学人間福祉学科講師 社会学
- 二〇〇〇年四月～〇一年三月 日本大学文理学部社会学科講師 地域社会学、社会学応用演習Ⅰ
- 二〇〇〇年九月～〇一年三月 東京大学文学部社会学科講師 社会学特殊
- 二〇〇一年六月～〇二年八月 二〇〇二年度国家公務員採用Ⅰ種試験(人間科学Ⅱ)試験専門委員(人事院)
- 二〇〇二年一月～〇七年一月 東京都港区社会教育委員
- 二〇〇七年四月～〇八年三月 大学評価委員(独立行政法人 大学評価・学位授与機構)
- 二〇〇九年六月～一二年三月 東京都大田区男女平等推進区民会議委員(後半二年…座長)

## 賞 罰

二〇〇一年度日本都市学会賞(奥井記念賞)受賞  
 受賞対象…『現代大都市の重層的構造』(ミネルヴァ書房、一九九九年刊行)

## 有末賢教授主要業績

### I. 編・著書

1. 川合隆男・原田勝弘・佐藤茂子・霜野寿亮・有末賢・鹿又伸夫共著『社会学—現代社会学の課題—』勁草書房、一九八四年四月
2. 石川弘義・津金沢聡広・有末賢・佐藤健二・島崎征介・蘭田碩哉・鷹橋信夫・田村穰生・寺出浩司・吉見俊哉編『大衆文化事典』弘文堂、一九九一年三月
3. 有末賢・霜野寿亮・関根政美編著『社会学入門』弘文堂、一九九六年三月
4. 有末賢・大石裕共著『CDレッスン 社会学・マス・コミュニケーション論入門』慶應義塾大学通信教育部、一九九七年九月
5. 有末賢『現代大都市の重層的構造—都市化社会における伝統と変容—』ミネルヴァ書房、一九九九年三月
6. 有末賢・内田忠賢・倉石忠彦・小林忠雄編集『都市民俗生活誌』全三巻、明石書店、二〇〇二年六月—二〇〇六年三月
7. 有末賢・関根政美編『戦後日本の社会と市民意識（叢書21COE—CCC多文化世界における市民意識の動態7）』慶應義塾大学出版会、二〇〇五年三月
8. 大谷幸夫・北川隆吉監修『講座 日本の都市社会 第5巻』北川隆吉・有末賢編著『都市社会研究の歴史と方法』文化書房博文社、二〇〇七年六月
9. 大谷幸夫・北川隆吉監修『講座 日本の都市社会 第3巻』有末賢・北川隆吉編著『都市の生活・文化・意識』

文化書房博文社、二〇〇七年八月

10. 渡辺秀樹・有末賢編『多文化・多世代交差世界における市民意識の形成（叢書21COE-CCC多文化世界における市民意識の動態 36）』慶應義塾大学出版会、二〇〇八年一月

11. 倉石忠彦・内田忠賢・有末賢・小林忠雄編集『都市民俗基本論文集』全四巻＋別冊二、岩田書院、二〇〇九年一月～二月

12. 有末賢『生活史宣言―ライフヒストリーの社会学―』慶應義塾大学出版会、二〇一二年八月

13. 浜日出夫・有末賢・竹村英樹編著『被爆者調査を読む―ヒロシマ・ナガサキの継承―』慶應義塾大学出版会、二〇一三年三月

14. 澤井敦・有末賢編著『死別の社会学』青弓社、二〇一五年五月

## II. 学術論文

1. 「批判的社会学の知識構造―パラダイム概念を軸として―」『慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要』第二〇号、三七―四五頁、一九八〇年二月

2. 「第五章 修験寺院の社会的機能」宮家準編『修験者と地域社会―新潟県南魚沼の修験道―』所収、一五五―一八八頁、名著出版、一九八一年九月

3. 「都市民俗研究への一視角―新たな分析視角の模索―」『哲学』（慶應義塾大学三田哲学会）第七三集、一〇一―一二三頁、一九八一年十二月

4. 「都市祭礼の重層的構造―佃・月島の祭祀組織の事例研究―」『社会学評論』（日本社会学会）第三三巻第四号（一三二号）、三七―六二頁、一九八三年三月

5. 「生活史研究の視角」『慶應義塾創立二二五年記念論文集法学部政治学関係』所収、三四五―三六六頁、一九八三

6. 「地域社会研究と地域文化論―現代都市社会学の転回―」『法学研究』（慶應義塾大学法学研究会）第五七卷第八号、一一二七頁、一九八四年八月
7. 「生活研究とライフ・ヒストリー―生活史研究から―」川添登編『生活学へのアプローチ』所収、四九一六八頁、ドメス出版、一九八四年二月
8. 「インナーシティ問題と歴史的生活環境―東京佃・月島の祭礼集団を通して―」『法学研究』第五八卷第二号、一六七―一九六頁、一九八五年二月
9. 「ロンドン―ヨーロッパの都市―」藤田弘夫・吉原直樹編著『都市―社会学と人類学からの接近―』所収、一〇一―一二三頁、ミネルヴァ書房、一九八七年四月
10. 「生活史と「生の記録」研究―ライフ・ヒストリーの解釈をめぐつて―」『法学研究』第六一巻第一号、二三三―二六二頁、一九八八年一月
11. 「都市民俗のダイナミズム―都市化と社会変動―」岩本道弥・倉石忠彦・小林忠雄編『都市民俗学へのいざないⅡ 情念と宇宙』所収、二六一―二八〇頁、雄山閣出版、一九八九年五月
12. 「大都市構造の変動と『東京問題』―ロンドンと東京の都心居住をめぐつて―」『法学研究』第六四卷第二号、一三三頁、一九九一年二月
13. 「東京化と地域社会」今田高俊・友枝敏雄編『社会学の基礎』所収、二〇七―二三五頁、有斐閣Sシリーズ、一九九一年五月
14. 「都市社会と意味の重層性―都市における構造と意味―」地域社会学会編『地域社会学会年報第五集 都市・農村の新局面』所収、五九―八九頁、時潮社、一九九一年五月
15. 「ウォーターフロント開発と佃祭りの変貌」『慶應義塾大学日吉紀要 言語・文化・コミュニケーション』第九号、一四―四三頁、一九九一年十二月



- 16 「質的社会学としての生活史研究」『法学研究』第六五卷第一号、二五九―二八五頁、一九九二年一月
- 17 「下町の生活世界―重層的都市文化への生活史的アプローチ―」森岡清志・松本康編『都市社会学のフロンティア 2 生活・関係・文化』所収、一九七―一二二頁、日本評論社、一九九二年六月
- 18 「現代日本社会と「ポスト・モダン」状況」『日本学研究 2』（北京日本学研究中心編）二二九―二五一頁、科学技術文献出版社（中華人民共和国・北京）、一九九二年二月
- 19 「意味的社会学」と生活史研究」『社会学年誌』（早稲田社会学会）三四号、六一―七四頁、一九九三年三月
- 20 「生活史の社会学」中寫邦・松平誠編『講座生活学第3巻 生活史』所収、六一―八七頁、光生館、一九九三年九月
- 21 「現代大都市の理論的地平―世界都市化における〈空間〉の理論―」『法学研究』第六七卷第三号、一―二三頁、一九九四年三月
- 22 「東京・下町の生活文化における「伝統と変化」」『季刊家計経済研究』（財団法人家計経済研究所）一九九四・秋（通巻第二四号）、二二―二九頁、一九九四年一〇月
- 23 「戦後日本社会の価値意識の変化―余暇と自己実現を中心に―」『法学研究』第六七卷第一二号、五五―八八頁、一九九四年二月
- 24 「彷徨するアイデンティティ―ライフ・ドキュメントとしての日記と作品―」中野卓・桜井厚編『ライフヒストリーの社会学』所収、一六七―一九〇頁、弘文堂、一九九五年二月
- 25 「移民研究と生活史研究―日系人・日系社会研究の方法論的課題―」柳田利夫編『アメリカの日系人―歴史・都市・生活―』所収、二二九―二五六頁、同文館、一九九五年三月
- 26 「生活史の方法論」栗田宣義編『メソッド／社会学―現代社会を測定する―』所収、一一五―一三二頁、川島書店、一九九六年三月
- 27 「ライフヒストリーにおける記憶と時間」『三田社会学』創刊号（三田社会学会）、六七―八二頁、一九九六年七月

- 28 月 「日本出稼ぎとエスニシティ変容」柳田利夫編著『リマの日系人―ペルーにおける日系社会の多角的分析―』所収、一三二―一五九頁、明石書店、一九九七年三月
- 29 「中国の都市社会におけるインフォーマル・グループ」『教養論叢』（慶應義塾大学法学研究会）第一〇八号「林嘉言先生退職記念特集号」、五三―六七頁、一九九八年三月
- 30 「再帰性と自己決定権」ポストモダンと日本社会―田中宏・大石裕編『政治・社会理論のフロンティア』〔慶應義塾大学法学部政治学科開設百年記念論文集〕所収、二五一―二八三頁、慶應義塾大学出版会、一九九八年一〇月
- 31 「都市民俗学と都市文化」宮家準編著『民俗宗教の諸相―宮家準先生退職記念論文集―』所収、九三―一〇七頁、春秋社、一九九九年三月
- 32 「民衆の生活世界―都市民俗と都市文化―」藤田弘夫・吉原直樹編『都市社会学』所収、一三八―一五六頁、有斐閣ブックスシリーズ、一九九九年七月
- 33 「生活誌研究と奥井復太郎」川合隆男・藤田弘夫編『都市論と生活論の祖型―奥井復太郎研究―』所収、一三七―一五八頁、慶應義塾大学出版会、一九九九年一〇月
- 34 「生活史調査の意味論」『法学研究』第七三巻第五号、一―二七頁、二〇〇〇年五月
- 35 「現代の都市空間におけるメディアと祝祭」日本生活学会編『生活学 第二四冊◎祝祭の一〇〇年』所収、二六一―二八二頁、ドメス出版、二〇〇〇年九月
- 36 「都市化の構造と『郊外化』現象」『都市問題』（東京市政調査会）第九三巻第五号、二〇〇二年五月号「特集 郊外化と都市社会」、三一―七頁、二〇〇二年五月
- 37 「戦後日本社会のアイデンティティ論―重層的アイデンティティに向けて―」『法学研究』第七七巻第一号「川合隆男教授退職記念号」、二〇〇四年一月、七七一―一〇二頁

- 38 「戦後日本の市民意識と社会科学」有末賢・関根政美編『戦後日本の社会と市民意識(叢書21COE-CCCC多文化世界における市民意識の動態 7)』所収、一―一九頁、慶應義塾大学出版会、二〇〇五年三月
- 39 「ライフヒストリーにおけるオーラル・ヒストリー」『日本オーラル・ヒストリー研究』(日本オーラル・ヒストリー学会) 創刊号、五〇―六四頁、二〇〇六年三月
- 40 「都市空間の匿名性と若者の社会関係―フラグメンテーションと下位文化―」『日本都市社会学会年報二四 特集 都市と若者』(日本都市社会学会編) 四二―五五頁、二〇〇六年九月
- 41 「現代社会における都市と若者―匿名性と下位文化―」『法学研究』第七九巻第一〇号、一―二四頁、二〇〇六年一〇月
- 42 「死別の社会学序説」山岸健「責任編集」草柳千早・澤井敦・鄭暎恵「編集」『社会学の饗宴Ⅰ 風景の意味―理性と感性―』所収、三―二五頁、三和書籍、二〇〇七年二月
- 43 「第7章 日本の都市社会研究」大谷幸夫・北川隆吉監修『講座 日本の都市社会 第5巻』北川隆吉・有末賢編著『都市社会研究の歴史と方法』所収、文化書房博文社、一九三―二一八頁、二〇〇七年六月
- 44 「総論 都市生活・文化・社会意識の特徴」大谷幸夫・北川隆吉監修『講座 日本の都市社会 第3巻』有末賢・北川隆吉編著『都市の生活・文化・意識』一九―四八頁、文化書房博文社、二〇〇七年八月
- 45 「都市社会研究の系譜と都市社会学の射程―何が見落とされてきたのか―」『法学研究』第八〇巻第九号、一―二九頁、二〇〇七年九月
- 46 「第1章 総論 多世代交差世界と市民意識」渡辺秀樹・有末賢編『多文化・多世代交差世界における市民意識の形成(叢書21COE-CCCC 多文化世界における市民意識の動態 36)』所収、一―一七頁、慶應義塾大学出版会、二〇〇八年一月
- 47 「個人化とコミュニティ概念の変容―古都・鎌倉のライフスタイル―」慶應義塾大学法学部編『慶應義塾創立一五〇年記念法学部論文集 慶應の政治学 政治・社会』所収、二七―四八頁、慶應義塾大学法学部、二〇〇八年

- 48 「戦後社会調査史における被爆者調査と記憶の表象」『法学研究』第八三卷二号、三九一七二頁、二〇一〇年二月
- 49 「生活史の『個性』と『時代的文脈』」『法学研究』第八四卷第二号、二五―五一頁、二〇一一年二月
- 50 「生と死のライフヒストリー―相互・循環・一回性―」『法学研究』第八四卷六号、七七―一〇六頁、二〇一一年六月
- 51 「序章 生活史宣言の意図」有末賢『生活史宣言―ライフヒストリーの社会学―』所収、一―四〇頁、慶應義塾大学出版会、二〇一二年八月
- 52 「第1章 戦後被爆者調査の社会調査史」浜日出夫・有末賢・竹村英樹編著『被爆者調査を読む―ヒロシマ・ナガサキの継承―』所収、一―三四頁、慶應義塾大学出版会、二〇一三年三月
- 53 「語りにくいこと―自死遺族たちの声―」『日本オーラル・ヒストリー研究』第九号、三六―四六頁、二〇一三年九月
- 54 「ジェンダー・セクシュアリティとオーラル・ヒストリー」山田富秋・好井裕明編『語りが拓く地平』所収、一九五―二二三頁、せりか書房、二〇一三年一〇月
- 55 「配偶者との死別と再婚」澤井敦・有末賢編著『死別の社会学』所収、一一八―一四二頁、青弓社、二〇一五年五月
- 56 「集合的記憶と個人的記憶―記憶の共有性と忘却性をめぐって―」『法学研究』第八九卷二号「関根政美先生退職記念号」、一九―四〇頁、二〇一六年二月
- 57 「公募特集『現代社会と生きづらさ』に寄せて」（有末賢・大山小夜共著）『社会学評論』二六四号、第六六卷第四号、四四六―四五九頁、二〇一六年三月

Ⅲ. 翻訳

1. Gary Easthope, *A History of Social Research Methods*, Longman Group Ltd. 1974 = G・イーストホープ (川合隆男・霜野寿亮監訳) 『社会調査方法史』第 4 章 参与観察法と生活史法』一〇四―一二六頁、慶應通信、一九八二年一二月

Ⅳ. 報告書

1. 霜野寿亮・佐藤茂子・田中重好・有末賢「月島調査」の周辺とその後」『法学研究』第五四卷第八号「研究ノート」四六―九〇頁、一九八一年八月
2. 地域生活研究会編『大都市における社会移動と地域生活の変化』『歴史研究編』「社会調査編」昭和五五年度、五六年度文部省科学研究費による補助金総合研究 (A) の報告書、一九八二年三月
3. 倉沢進『近代日本都市計画関連年表』(協力者・有末賢・桜井厚) 国連大学人間と社会の開発プログラム研究報告 技術の移転・変容・開発―日本の経験プロジェクト「技術と都市社会研究部会」国際連合大学、一九八二年五月
4. 『中央区佃島地区文化財調査報告』東京都教育委員会、一九八四年一月
5. 門脇厚司「研究主査」『生活水準の歴史的推移』総合研究開発機構、NIRA OUTPUT、九一―一〇頁、一六―一八頁、一九八五年三月
6. 『世代交代からみた二二世紀の郊外住宅地問題の研究―戦前及び戦後の郊外住宅地の変容と将来展望』『環境文化研究所 (環境文化シリーズ)』(大坂彰・山岡靖・和田清美・有末賢) (財) 環境文化研究所、一九八五年一二月
7. 『都市の変容とライフスタイルへのアプローチ―都市研究会―』TRIINETWORK 研究報告八八―三、(株)

東急総合研究所、一九八九年二月

8. 有末賢「首都圏の居住環境と社会的分離に関する研究」『住宅・土地問題研究論文集』第一九集、一〇一―一二四頁、財団法人日本住宅総合センター、一九九二年七月

9. 「東京圏一極集中の行方を占う―東京圏研究会―」「東京圏一極集中化の現状と将来の展望」「東京圏研究会」を終えて TRI-NETWORK 研究報告九四―三、(株)東急総合研究所、一九九四年三月

10. 有末賢「社会学からみた余暇研究の系譜」『余暇研究の系譜―一九九三年度基礎文献プロジェクト研究報告―』財団法人日本レクリエーション協会 余暇生活開発・レクリエーション総合研究所、一九九四年六月

11. 「都市居住の行方を占う―都市生活者ライフスタイル研究会―」TRI-NETWORK 研究報告九四―六、(株)東急総合研究所、一九九四年一二月

12. 「台場コミュニティ調査報告書」(台場コミュニティ調査研究会編)梅沢印刷所、一九九七年一月

13. 「近代鎌倉における『鎌倉らしさ』の構築」(鎌倉研究会「代表・有末賢」編)、友遊書房(松尾浩一郎)、二〇〇四年五月

# V. 書評・解説

1. 松本通晴編『地域生活の社会学』間場寿一編『地域政治の社会学』井上俊編『地域文化の社会学』『法学研究』第五七巻第七号、一〇一―一二頁、一九八四年七月

2. 小林茂・寺門征男・浦野正樹・店田廣文編著『都市化と居住環境の変容』『法学研究』第六一卷第六号、一三六―一四六頁、一九八六年六月

3. 今田高俊『自己組織性―社会理論の復活―』『法学研究』第六二巻第四号、一五六―一六三頁、一九八九年四月
4. 中田俊造『娯楽の研究』『教育上より見たる娯楽と休養』(上・下)解説、石川弘義監修『余暇・娯楽研究基礎文

- 献集』別巻解説書、一一九―一二四頁、一五二―一五七頁、大空社、一九九〇年四月
5. 倉石忠彦『都市民俗論序説』『日本民俗学』（日本民俗学会）一八三号、九八一―一〇二頁、一九九〇年八月
6. 藤田弘夫『都市と国家―都市社会学を越えて―』『法学研究』第六三巻第一〇号、一二二―一二七頁、一九九〇年一〇月
7. 上田喜三郎『陶工職人の生活史―民芸牛ノ戸焼親方の生涯―』『週刊読書人』一九九二年四月六日
8. 奥田道大『都市と地域の文脈を求めて―二一世紀システムとしての都市社会学―』『週刊読書人』一九九三年三月二二日
9. 高橋勇悦『東京人の研究―都市住民とコミュニティ―』『都市高齢化と地域福祉日本都市社会学会年報15』一六九―一七二頁、一九九七年六月
10. 中野卓『鰯網の村の四〇〇年―能登灘浦の社会学的研究―』『シティズンシップと再生する地域社会 地域社会学会年報第10集』一八七―一八八頁、ハーベスト社、一九九八年五月
11. 「書評リブライ…意味の重層性と現代都市文化」『日本都市社会学会年報』第一八号、園部雅久「書評…有末賢『現代大都市の重層的構造』」一二九―一三四頁、二〇〇〇年七月
12. 松田素二『抵抗する都市―ナイロビ 移民の世界から―』『市民と地域―自己決定・協働、その主体―地域社会学会年報第13集』二三五―二三六頁、ハーベスト社、二〇〇一年五月
13. 中川清『日本都市の生活変動』『三田学会雑誌』（慶應義塾経済学会）第九四巻第三号、一八三―一八六頁、二〇〇一年一〇月
14. 中野紀和『小倉祇園太鼓の都市人類学―記憶・場所・身体―』『三田社会学』第一四号、一二九―一三二頁、二〇〇九年七月
15. 田中重好『地域から生まれる公共性―公共性と共同性の交点―』『三田社会学』第一六号、一五一―一五四頁、二〇一一年七月

- 16 橋本みゆき『在日韓国・朝鮮人の親密圏―配偶者選択のストーリーから読む〈民族〉の現在―』『日本オーラル・ヒストリー研究』第八号、一七七―一八〇頁、二〇一二年九月
- 17 橋本和孝『地域社会研究と社会学者群像―社会学としての闘争論の伝統―』『地域社会学会年報』第二五集、一八九―一九〇頁、二〇一三年五月
- 18 「書評リプライ…ドキュメントとストーリー―水野節夫氏の拙著書評に寄せて―」水野節夫「有末賢『生活史宣言』を読む」『三田社会学』第一八号、一四六―一五〇頁、二〇一三年七月